

今日のみことば

□ 4月22日(日) サムエル記下 17章

ダビデを狙うための策略をアヒトフェルとフシャイが提案したが、アヒトフェルの提案は退けられて彼は自殺する。神はダビデの苦難のためにも働いておられた。

□ 4月23日(月) サムエル記下 18章

ダビデは国民の信頼を得て王となったが、息子アブサロムの反乱は悲しみであった。国民への義務と息子への愛の間での葛藤を苦悩であった。

□ 4月24日(火) サムエル記下 19章

息子の死を悲しむダビデをヨアブは叱責する。耳ざわりな言葉でしたが、ダビデの目を開かせました。そのことによってダビデは政治的危機から救われました。

□ 4月25日(水) サムエル記下 20章

シェバが反乱をもくろみ、ダビデはアマサに鎮圧を命じたがアマサはヨアブの策略でだまし討ちにされた。シェバの反乱はことがならず鎮圧された。

□ 4月26日(木) サムエル記下 21章

三年間の飢饉の原因を見定めたダビデは、それを取り除き、サウル家に対する敬意を表しました。ペリシテ人に対する功績が記されています。

□ 4月27日(金) サムエル記下 22章

これはダビデが老年になり、過去の恵みを振り返って作った詩です。ダビデの神への揺るがない信頼、神の絶えざる保護に対する無限の感謝が示されている。

□ 4月28日(土) サムエル記下 23章

ダビデの最後の言葉です。彼の光輝ある、しかし多難な生涯の終わりに、何を心の中に感じていたかが示されている。神のみ心に従った王の生涯が語られている。

ろ ぼ No. 1864
2018年 4月22日
日本バプテリスト教会
牧師 大川 博之

ヨハネ 3:3

イエスは応えて言われた。「はっきり言うておく。人は、新たに生まれなければ神の国を見ることはできない」

ニコデモとイエスさまとのこの会話は、イエスさまがなされた最初の論争ではないかと思っています。そこでイエスさまは「新たに生まれなければ」と言われました。そのとき私は、マルコ福音書が記した、イエスさまの宣教の第一声「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」(マルコ1:15)の言葉を思い起こさせられました。すべては私たちがしっかりと自分自身を知っているかということから始まるということです。私は何者なのか。救いからほど遠い罪にまみれた私です。この私が救われるのは、悔い改めて新しく生まれることです。キリスト・イエスによる福音とは、罪人である私をしっかりと見つめるところから始まるのではありませんか。私たちが心得るべき第一のことが

罪の自覚です。ニコデモにはまだその自覚はありませんでしたが、イエスのうわさを聞く中で、どうしても確かめたいことがありましたから、夜こっそりと人目を気にしてイエスを訪ねたのです。そこでイエスから「人は新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない」と言われてしまいました。

私は、このイエスの言葉をしっかりと見つめてくださいと言わせていただくのです。言葉を見つめるとはどのようなことかと問われるかもしれません。「初めに言があった。言は神であった」(ヨハネ1:1)とのヨハネの言葉を思い出してください。言葉を

見つめるときに聞こえてくる言葉が必ずあるはずです。私はよくイエスの十字架が語る言葉を聞いてほしいと言わせていただきます。そこから聞こえてくる二つの言葉があります。あなたがこの私を十字架につけました。私はそのあなたを愛して十字架にかかりましたと。それこそが私たちがしっかり聞きたい十字架が語る言葉です。

イエスは「はっきり言っておく。だれでも水と霊とによって生まれなければ」と言われました。ユダヤ民族はアブラハムの子孫として、神に特別に選ばれたものとしての自負に生きていましたが、ユダヤ民族に生まれることでも、律法に従うことでもなく、神の国に入るのは、聖霊によって生まれるものであるといわれる。本当に私たちは、私が何者であるかをしっかりと受け止めているのでしょうか。「はっきり言っておく」と言われるイエスの原文は「アーメン、アーメン」です。ニコデモはイエスからしっかりとまことの言葉を聞きました。パウロは私たちに「あなた方の救われたのは恵みによるのです」(エペ2:5)と語りました。この喜びの出来事は、ただただ神さまからの賜物です。この賜物をしっかりと受け止めさせていただくためには、私たちは、今の自分に死ぬことなしには生きることはできません。あなたが自分の本当の正体を知ったら、ただただびっくりするばかりです。そして心からの悔い改めが成されるところにキリストの十字架の贖いがあります。罪贖われ、新しく誕生したあなたの希望に満ち、主の栄光の中に喜びに生きるのです。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

コリントー 8:1-13 自由は共に生きるため

私たちはキリストにあって、すべて自由であると聞いていますが、その運用の仕方に私たちは気をつけなければならない神さまからの大切な指摘を忘れてはなりません。「『すべてのことが許されている。』しかし、すべてのことが益になるわけではない。『すべてのことが許されている。』しかし、すべてのことがわたしたちを造り上げるわけではない。だれでも、自分の利益ではなく他人の利益を追い求めなさい。」(コリントー10:23-24)と言われます。

神さまの言葉に忠実に生きていると自負している人は、本当に思いのままに、自由に生きています。しかし皆が皆、そうであるわけではありません。強い人は、弱い人を非難し、傷つけることがないではありません。パウロは私たちが本当にキリストに忠実であるとするなら、「自分の利益ではなく他人の利益を追い求めなさい」と言います。しっかりと聞くべき言葉です



Read God's Word.

次週の聖書・説教

創世記28:11-22

神のみ姿